

始めて澄
水を見る

二十六日車馬の準備漸く成りて涇州を發し、行くこと數町、汭河を渡る。河幅約二百米突、水幅約十五米突、架するに土橋を以てし、流水清澄頗る快感を與ふ。

西王母の
廟

河岸路傍に碑あり。「聖母降誕之處」と大書す。乃ち土人に導かれ、左折して行くこと數町、羅家山の小谷に傍ふて上れば、一小廟を山腹に望む。是れ即ち西王母の廟なり。方約二間の小池を中心として建築せられ、正面に聖母の像を安置し、池の三面に廻廊を設け、古今名家の題詩を以て満たされたり。小池は瑤池と號し、廟後に源泉ありて滴々之に注ぐ相傳ふ周の穆王八駿に駕し、西王母に瑤池の上に會し、樂んで歸るを忘る、即ち此地なりと。今や不死の仙桃尋ぬるに由なく、四邊の風物俗氣紛々として、些も身の仙境に在るを覺えず。戯に左の一篇を賦す。

一片瑤池明月光

秦皇漢武馬蹄忙

癡心不禱長生藥

願借霓裳翫八荒

棗梨の林

十里堡には梨樹多く、焦家溝には土寨ありて、其の西側一帶の地は棗、梨、林を成すを見る次で、小河を涉り、十二里堡、香家溝、王村、百家庄、土垢舖、杜家溝、下八里村、花家鎮を経て行程約十里、白水（パインユイ）に投ず。此間桃棗其他の果木林を成すもの相繼ぎ、又花家